



SJ50！シンガポールでお祭りだ！ ～シンガポール人とのコラボ事業の舞台裏～

(一財)自治体国際化協会シンガポール事務所 次長 鍋岡 崇 (京都府派遣)

本稿は、日本・シンガポール外交関係樹立 50 周年 (SJ50) という大きな節目においてクリアシンガポール事務所がどのような貢献を考え、さまざまな人々を巻き込んで準備していったのか、記録としてまとめました。国際交流事業において不可欠の周年事業を実施するうえでの参考事例として御一読いただけましたら幸いです。

日星関係と「SJ50」

1965 年 8 月 9 日、マレーシアから追い出される形で独立した小さな島国シンガポールは、水の確保や住宅供給といった内政上の大きな課題に取り組みながら、諸外国と次々に外交関係を結んでいきました。

戦後、いまだシンガポール人には反日的な感情が残っていましたが、当時のリー・クアンユー首相 (2015 年没) は、シンガポールの発展には日本の協力が不可欠と判断していち早く戦後賠償問題を処理するとともに、1966 年 4 月 26 日に日本との外交関係を樹立しました。

すなわち、昨 2015 年はシンガポール建国 50 周年、さらに本 2016 年は日星外交関係樹立 50 周年という、両国間関係上大きな節目を迎えました。そして、両国政府はこれを記念して、本年を「SJ50」と命名しました。しかも単に 50 周年を記念するだけでなく、次の 50 年、すなわち 100 周年を見据え、より継続的かつ重層的な相互関係を発展させていくことへの期待を込めました。



SJ50 公式ロゴマーク

すでに 200 件以上の認定事業

この SJ50 の関連事業をシンガポールにおいて推進していくため、在シンガポール日本国大使館を中心として日系の関係機関・団体・企業などとともに「SJ50 実行委員会」が結成されました。クリアシンガポール事務所

もその構成メンバーとなり、主催事業の意思決定や関連事業の認定申請の審査に参加しています。

ちなみに、SJ50 認定事業は、日星合計で 200 件を超え (2016 年 10 月末日時点)、実に 2 日に 1 件以上のペースでイベントが開催される計算になります。当事務所も、5 月に東京で「経済セミナー」および 10 月上旬にシンガポールで「地域間交流促進プログラム」を認定事業として開催しました。

同時開催「SJ50 まつり」と「ジャパントラベルフェア」！

シンガポールにおける実行委員会の主催での一大メイン・イベントとして「SJ50 まつり」を、10 月 29 日・30 日の 2 日間、シンガポールの一大商業エリアであるオーチャード通り、シンガポール高島屋があるニーアンシティ前のシビック・プラザで開催することとなりました。また、これと連動して 10 月 28 日から 30 日の 3 日間、日本政府観光局 (JNTO) シンガポール事務所が、同商業施設内で「ジャパントラベルフェア」(JTF) を開催することになりました。

のべ 10 万人の集客が見込まれたため、クリアシンガ



当協会岡本理事長も出席した JTF 開会式 (最前列左から 4 番目)

ポール事務所としては日本の地方をアピールする絶好の機会と捉え、両方のイベントに積極的に貢献していくこととしました。

クリアらしさの追求

離任者と新規赴任者が入れ替わる慌ただししい昨年度末から本年度初めにかけて、所長、担当者および小職の3名による企画会議では、専門分野をもつJETROやJNTOと異なる「クリアらしさ」をどのように打ち出していくかについて、連日議論を行いました。

当初は、2年前のJTFで行ったように事業者に委託して地方物産の販売を行うことを想定しました。しかし、シンガポールではすでに多くの自治体がトップセールスを行い、同時期に「Food Japan」が開催されるなど多数の日本食関連イベントが実施され、また、クリアらしさが打ち出せないのではやめることにしました。

まず、何よりもクリアの財産は現役の自治体職員そのものですから、その派遣元の自治体の特色をPRできる場にしてはどうか、ゆるキャラもたくさん呼べないか、というアイデアが出ました。しかし、それだけで3日間の間が持たないし、面白味に欠ける。

では、本年30周年を迎えるJETはどうか。その同窓会組織(JETAA)と連携して、彼ら自身の日本の地方での体験などを話してもらったらどうだろうか。しかし、JETAAもそれぞれの仕事を持つ社会人であり、無理強いはいできない。SJ50の趣旨に則り未来への交流につなげるには、若者=未来のJET候補生の参加が不可欠であり、普段からつながりのあるシンガポール国立大学(NUS)やナンヤン工科大学(NTU)の学生にも主体的に参加してもらったらどうだろうか。

以上のような紆余曲折の議論を経て、①クリアらしさの追求、②次の50年に向けた第一歩・次世代への継承、③シンガポール人の視点をメインコンセプトに、「人・交流・繋ぐ」をキーワードとする方針を固めました。

コラボとチームビルディング

方針決定後、JETAA、NUSおよびNTUに直ちにコラボの話をもちかけたところ、気持ちよく引き受けていただけました。

JETAAからは、毎年浴衣ワークショップを実施しているので、それをクリア・ブースでもやりたい、さらに、



決起集会でシンガポールの若者たちと

JETAAが参加しているシンガポール人の太鼓チームがあるので大勢の前で演奏を披露したいとの提案がありました。また、NUSからは、日本文化に関心のある学生たちによる茶道、琴、舞踊のサークルが参加するとの嬉しいオファーがありました。これで、クリアの職員ではなく、シンガポール人の若者が日本をPRする中身の仕掛けができました。

その一方で、クリアとしては地方への観光誘客に結び付けていくことも重要なミッションであるため、SJ50まつり会場ではなく、トラベルフェアの会場にあえてブースを出すべく、JNTOとの交渉を進めた結果、3小間18.75平米を確保していただけました。また、鉄道を切り口にオールジャパンの観光誘客を狙う「JR CAFÉ」がタイミングよく12月から当地で開店することから、それともコラボすることとしました。

ブースの設えについて、浴衣を着て記念撮影できるようにしたり、呈茶や琴演奏などの文化プログラムで日本らしさを出せるようにしたりするため、職員の派遣元自治体から写真を提供してもらい壁紙にするアイデアが出てきました。また、SJ50まつりとの一体性を持たせるべく、職員や当地駐在の自治体事務所に御協力いただき郷土文化を象徴するような小物類(扇子、法被、達磨…)をお借りすることにしました。

琴や浴衣を一時保管するストレージ部分も欠かせなかったため、レイアウトに苦慮しました。議論の末、最終的にたどり着いた設えは次ページの写真のとおりです！参加者にもお客様にも大好評でした。

準備を進める過程で、担当者2名では準備も当日のブース運営も手が回らないことが明らかになりましたの

で、1年目職員4名を担当者に加えました。7月29日にはJETAAと大学生を当事務所に集めて決起集会を行い、われわれの思いを直接参加者と共有するとともに、当日の内容や要望事項について確認しました。さらに、ゆるキャラ招聘やチラシ作りなどに興味を持った2年目職員3名や現地職員も自発的にチームに参加してくれることになり、本番に向けて大きなチームができあがっていきました。このように次々と内外の人たちの協力を得て、チームビルディングが完了しました。

いざ本番!

10月28日、岡本理事長が「日星友好・一致団結」を祈願する「SJ50 だるま」に片目を入れてキックオフ! 3日間、職員と協力者の皆様のおかげで、クリア・ブースは終始大盛況でした。やはり、シンガポール人がシンガポール人に伝えるからこそ響くものがあり、また、飽きさせないさまざまなイベントを実施できたことが成功の要因であったと思います。そしてその前提として、普段から関係団体と友好的関係を築いてきたことがきわめて重要であったと思います。

同時開催のSJ50まつりでもJETAAの太鼓チーム、学生たちの琴や舞踊の発表の機会を設けたり、館林市・佐野市・鹿児島県の協力でのゆるキャラの出演が実現したりしたほか、オーチャード通りを歩行者天国にして開催されたパレードには、NUSの学生がデザインしたオリジナルTシャツを着た100名余りのクリア・ブース関係者がゆるキャラと共に参加し、お祭りムードの高揚に大きく貢献しました。

さまざまな外の組織とのコラボレーションで、担当職員には

平常業務と異なる重い負荷がかかったとは思いますが、50年に一度の盛大なイベントの一コマをシンガポール人ともに創り上げることができたことは、当事務所にとっても職員達にとってもかけがえのない大きな財産になったと考えます。

ご協力いただいた全ての方々に対して、この場をお借りして改めてお礼申し上げます。

(参考リンク)

クリアシンガポール事務所フェイスブック

<https://www.facebook.com/clairsig/>

[SJ50] フェイスブック <https://www.facebook.com/SingaporeJapan50/>

[SJ50まつり] ホームページ http://sj50matsuri.com/index_jp.html



岡本理事長によるだるま目入り



終始にぎわったクリア・ブース



JETAAによる浴衣着付け



NUS 大学生による呈茶



パレードで一際目立ったゆるキャラたち



お揃いのクリアTシャツで100名行進!